



# 雷様も花見

## 昨日の大賑ひ!

### 茨城から押掛けした一千名

昨日曜日の松ヶ岡公園は春日和麗かに人々の行樂氣分を暖り朝から足繁く詰め掛けた市内の花見客は夫々樹下に陣取つて散り初めた花に

も人また人に埋つてゴツタ返しの大混雑、餘興場の演藝をキツカケに此處計りは野暮で通れぬ亂痴氣騒ぎが隨處に初る、かくて午後四時半頃

名残りを惜しむ、午前九時卅四分平驛着の下り列車からは水戸運輸募集の茨城団体一千名がドット吐き出され町當局を初め商工會、それに藝妓連迄出迎へて道案内に轉手古舞ひ、此の大団体が松ヶ岡へ

突然初雷が物凄く鳴り出したのでスワ大雨がやつて来るかと思ひの外間もなくケロリと空は晴れて陽光温く再び夜櫻かけて花の山は賑つた、此の初雷に思はぬ儲けをしたのは市内の飲食店、一時は

松ヶ岡へと繰り込んだので助川團体の四百名、鮮魚組合の三百五十名其他と共に、流石に廣い花の山

雨宿りの積りて飛び込んだ旅の花見客で何處の店も溢れて居た

# うば櫻

## 此處二三日は

### 捨て難い趣き

平町の櫻花も昨日の激しい初雷に此分で豪雨沛然と來ては萬事休すお花見もお仕舞いと危ぶまれたが幸ひバラくと來た丈で無事に済み今日はまた朝からカラリと晴れて依然花見客は絶えない、これで風雨の難くない

なければ未だ未だ二三日はうば櫻の捨て難い趣きに公園も新川端も相當に賑ふであらうが白土八幡の八重櫻も大部蕾がふくらんだのでこれから此の方面に人の足が引かれる事になるであらうと

## 教務主任

### 廿六日に協議

郡下小學校教務主任會は來る廿六日午前十時より平第一小學校講堂にて開かれ左

記事項について協議、午後一時より福島女師範附屬小學校主事沖田武雄氏の講演ある由  
 △學校經濟上教務主任として活動すべき範圍如何  
 △國民精神涵養上修身國史國語科取扱につき留意すべき点如何 △兒童養護上衛生施設につき特に努力を要する事項如何  
 △尋常科一學年改訂算術教科書研究會開催しては如何 △本年度講習に對する希望如何

## 大人氣の

### タコ揚げ

#### 濱通りで最初

南裡田圃に一萬の出入

既報本縣濱通り最初の風揚大會は國防博主催時事新報後援で昨廿一日開催午前中は各地から集つた出場風二、十三張を博覽會場内に陳列大小色とり／＼に人氣を呼んだが圖案並に骨組等の審査を行ひ午後一時半から新川堤南方の田圃で競技が初まる頃は市民の觀衆は勿論松ヶ岡公園の觀客迄繰込んで新川一帯の出入は無慮一萬を算する雜踏を見せた折柄絶好の南風に乗つて各

## 經濟更生村

### 郡内に四ヶ村

山田、夏井、島好間の四ヶ村は郡下に於ける本年度

## 經濟更生指定村に決定した

奨励金の交付 平町役場の納稅表彰奨励金は明日より交付すると

## 平町人事

□ 出生  
 △古銀治三五 秋本惣一氏  
 二男昌弘  
 □ 婚姻  
 △新川町 當時東京市淺草區千束町二丁目鈴木友一(三三)氏新潟新發田町字泉町阿部スズノ(二四)さん  
 □ 死亡  
 △三丁目一六松崎ソノ(六一)さん

## 一冊の代金で

### 御希望通りな

## 五冊の雑誌が

### 自由に讀める

## 川崎巡回文庫

電六三〇番  
 (申込次第規則書進呈)

## 東京短期

(單位十錢)

寄附	大引	高値	安値
新東 一四七〇	一四七三	一四七三	一四七三
大新 九三二	九三三	九三三	九三三
新鐘 三三三	三三三	三三三	三三三
日清紡 二四〇	二四〇	二四〇	二四〇
帝人 七三三	七三三	七三三	七三三
東洋 七三三	七三三	七三三	七三三
日石 三三三	三三三	三三三	三三三
日産 三三三	三三三	三三三	三三三
鋼管 一〇八〇	一〇八〇	一〇八〇	一〇八〇
日電 四七四	四七四	四七四	四七四
日電 四七四	四七四	四七四	四七四

(場面觀) 東京短期目先納會迄は戻り賣一貫新東株百四十四圓買場の見受けられ要するに參圓位の持合と張る

## 米期

東京 大阪

前場一節	當月期	中月期	六月期	先月期
二九三	二九三	二九三	二九三	二九三
二九三	二九三	二九三	二九三	二九三
二九三	二九三	二九三	二九三	二九三
二九三	二九三	二九三	二九三	二九三
二九三	二九三	二九三	二九三	二九三
二九三	二九三	二九三	二九三	二九三
二九三	二九三	二九三	二九三	二九三
二九三	二九三	二九三	二九三	二九三
二九三	二九三	二九三	二九三	二九三

(場面觀) 米は去る十九日付三十圓十六錢は小天井是れより五十丁下押し約壹圓昂騰后賣場との觀測

んやちんのしよとひお (3)



印刷の御用は  
 設備完全の  
 『常磐毎日』へ  
 電話六三〇

# 矢吹教員の遺産を巡り

## 遂に發砲沙汰

### 親族間の醜い争闘續く

平第二小學校の裁縫専科教員に在職中爪で火を灯す極端な節約振りで二萬圓の金を残し遂に死んだ矢吹キクさんの遺産相續の問題はキクさんが獨身で押し通し世繼ぎの子供のない處から親族間に醜い争闘の種となり屢々世間の耳目を惹いたが此程又々

膝詰談判を始めたが手きびしく刃付付けられ矢庭に獵銃を手に取り直して叔父を目掛て發砲弾は幸ひ命中せず床板を抜いた丈で済んだが吃驚して逃げ出した喜藤治は其足で駐在所に駆

け込んだ爲め直ちに彌右衛門は其場で捕はれ目下平署に於いて渡邊司法主任取調中であるが彌右衛門は殺す氣はなく唯脅かしの爲めに發砲したと云ひ張つて居るが結局恐喝及び家宅侵入罪は免れぬ模様である

## 轢かれた被害者が減刑の嘆願

### 傷害致死の事件 略式で罰金五十圓

石城郡小名濱町字中坪五〇野口末松氏方自動車運轉手武田亨(三三)が去る二月十七日トランプを運轉二本松より小濱に向け疾走中安達郡石井村白石地内に同郡岳下村農圃七妹戸川ヨシ(四七)を挽き倒し頭蓋骨折死させしめた事件は被害者の兄彌七より「妹は聲で精神異常を來たして居たのですから運轉手さんを餘り重く罰しない様に」との申立があり今廿三日平區才判所より略式罰金五十圓といふ同情ある判決があつた

## 十週年祝賀

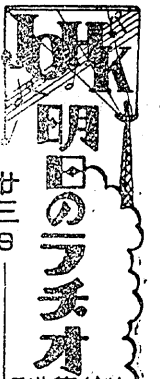
### 勿來の町制

勿來町では來月一日午前十時から同町劇場で町制施行十週年記念祝賀會を催すべく準備中である

## 鮫川江筋

### 十一萬圓起債

鮫川江筋復活第一期工事の上遠野村字瀧地内より下流大架樋に至る延長二千米の改修工事は四萬二千圓の工費で此程完成引續いて十年一度工事に着手する爲め去る



廿三日

今晩も明日も北西の風天気好くなる

## 今晩の部

- 後六〇〇 子供の時間 齋唱と合唱 常盤木學園 高等女學校生徒
- 後六二六 基礎英語講座 (七) 岡倉由三郎
- 後七三〇 講演「アイヌの文化とその叙事詩」ユイカラの話 文學博士金田一京助

廿日午前十時から平町團體事務所臨時會を開いた結果工費十一萬圓を大藏省預金部から低利資金を以つて當てる事になつた

## 幼女轢れ

### 遂に絶命

## 同僚の金品を盗む

### 餘罪も自白

東本町八仙坊武藤一吉(二二)は去る十七日午後十時頃合宿所内の同僚小宅安吉の不在中現金十七圓入墓口及び洋服オー等時價八十圓餘の品を窃取した事發覺平署に檢舉されたが餘罪數

平町三丁目自動車營業遠藤美矢(三三)は昨廿一日午前十一時半頃自から乗客五名を乗せた貸切車を運轉して小名濱町に向ふ爲め月見町内を疾走中前方の馬車の間から飛出した四軒町二三條崎庄重二女由惠(三三)を轢き倒し頭部及び胸部に全治一ヶ月を要する重傷を負はし直に諸橋病院で手當を加へたが午後四時遂に絶命した

## カメラに納めた

### 花に躍る平

### 廿九、卅の兩日上映

## 聚樂館にて

櫻花時の平町をカメラに納めるため過般忠魂祭や消防行事或は花の松ヶ岡に活躍した東洋映畫社撮影班一行は昨廿一日を以て撮影を完了

了歸京し目下東京本社でフィルムを焼き付けを急いで居るが早くも来る廿九、三十日(晝夜二回)聚樂館にて「花に躍る平」と題して是れ

## 明日の

- 前六三〇 基礎獨語講座 (七) 武内大造
- 前七〇〇 朝の修養「松陰土規七則」(三) 海軍大佐廣瀬豊
- 前九一五 滿洲洲皇帝陛下神戶港御出航御模様(神戸港中継)
- 前一〇〇〇 幼児の時間 唱歌 黒澤貞子
- 前一一〇〇 婦人講座 「春から夏への洋裁」(九) 安戸ミヤ
- 後〇〇五 吹奏樂(桃谷演奏所より中継) 大阪音樂隊

を封切ることになつた、平町を中心に撮影した映畫であるだけ一般から期待されて居るが右の映畫に加へて教育映畫「吾等の先生」及び平消防組所蔵の「嗚呼緑川小頭」が共に上映されると

## 遺言の寄附

仲町長谷川長太郎氏は此の程喪つた嚴父の遺言により同町小學校へ三十圓消防組へ二十圓、軍人分會へ十圓を寄附した

## 小野家の不幸

長橋町小野園次郎氏母堂アサ姫は永らく病氣中の處今晩午前一時半永眠、葬儀は廿五日午後一時自宅出館性源寺に於て執行の筈享年七十才

## 平職業紹介所報告

- 求人を求める方
  - △下働 三十五、六迄 高卒 月十圓位迄
  - △運搬夫 二十以上 日給七十錢
  - △小守 五十前後 月四、五圓
  - △トラク助手 二十三迄 高卒 月五圓
- 回職を求める方
  - △農夫 三十才 中二修
  - △事務員 二十才 中卒
  - △小役員 十七才 高卒
  - △外交員 四十五才 高卒

## 統計優良委員

町に本日開催された縣下各町村統計委員大會に於いて本郡の優良委員として表彰されたのは上遠野村の山野六太、貝泊村の蛭田瑞穂の

## 中島判事講演

中島平區才判所監督判事は來る廿七日午前十時から密岡小學校で開催される農政座談會へ講演に招かれ臨席する





# 明治太平記

(無断複製 上映及上演)

(作) 寺島 征史  
(監) 野口 蓮

## 第一〇五回 間牒往来 (10)

「おう、これもおぬしか」  
 「一つさ、もういものよ」  
 「凄腕だのう」  
 「なアに、これしきのこと」  
 「おや」  
 大志賀は背後を振かへつた。

「百姓牢の波方がいかに騒然となつたのだ」  
 「めつかつたかな……もうおそいよ」  
 偽者の獄吏は、ニタリ笑つた。  
 突然どこからドラが鳴り渡つた。  
 「破牢だ！」  
 「出ませい！」  
 そんな叫喚を背後に聞いた「早く」

偽者は大志賀をせきたて人々の叫びを聞き流して其儘に表門を出てしまつた。  
 破牢だ！  
 「わア……」  
 牢内に提灯の火が縦横に流れるのをみとめた。  
 「かたじけないぞ」  
 大志賀は娑婆の風に吹かれてやつと人心がついたと云ぬばかりに太く息づいた  
 「禮をいふひまあつたら、もつとかけろ」



偽者の獄吏はけはしい目をしてみせた。成程また安心はならぬ牢役人、獄吏の面々が提灯をかざしてあとをおふてくる様子……  
 二人はいつさんにかけた砂利を蹴散らし疾風のやう

「禮をいつた」  
 「禮か、禮なら俺にはいはずに親分にいつてくれ」  
 「親分？」  
 「てめいより一足先に破獄した天竺浪人の安藤さ」  
 「おう、あの白浪か、ちやおぬしも……」  
 「俺か、天竺浪人の一の兒分、明治白浪五人男の一人木隠れ山田貢といふもんだおぼえておけ」  
 濱町河岸——  
 隅田の川風が肌冷たくもはや夜明に近かつた、河岸にうちよする川波の

に駈て駈ぬけた。  
 「もういわ」  
 偽者は自信ありげにいつた。  
 「……」  
 大志賀は振かへつた。提灯の群はもう背後に續かなかつた。  
 「かたじけないぞ」  
 大志賀はあらためてまた

音にも曉の足音が感じられた。  
 偽者の獄吏と牢破りの大志賀とがのんびりした氣持で歩いてゐる。  
 「さうか、明治白浪の一人だつたのか」  
 大志賀は不思議な感慨に胸をふくらませながら幾度かそれを繰返した。

「一緒に破牢を約束してをきながら天竺ともあらう大盗が約束を反古にし、大志賀をおいて一人娑婆へ出てしまつては天道様に顔むけが出来ねえと、かういつてをつたぞ」  
 「天道様にか……盗人でも天道様に濟まないと思ふのか……で、その約束をまもつて今日今夜、俺を助に参つたのか、盗人とながら感心な奴だなう」  
 「なアに、盗人と仲間は一倍仁義が深いものだよ」  
 「木隠山田貢といふたな、……はて聞いたことのある名だ」  
 大志賀は小首を傾けた

見習生募集  
 十四才より十六才迄

高橋時計店  
 平町二丁目  
 西村屋薬店  
 トナリの  
 トナリ

藤沼醫院  
 平町・紺屋町  
 電話五〇七番

吸入用酸素 純度 99%  
 度量器  
 モノサシ  
 マス  
 ハカリ  
 秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス  
 体温計  
 寒暖計

關内藥局  
 電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

丹野齒科醫院  
 丹野 淳 夫  
 平野 電話三八五番

御花見の折詰川  
 春に花は必然です  
 そして酒あつこの櫻です  
 然も酒は魚清の折詰川によつて  
 百パーセント天の美縁となるです  
 ＊御花見には是非御用命の程を  
 ◎特製みつ豆はじめました

魚清食堂  
 平二番客星通り  
 電話六三三

流線型入車  
 お待ち兼ねの卅五年式流線型第一車が入車致しました。  
 是非御試乗の程願ひ上げます  
 電話六四〇番  
 尼子タクシ



レストラン 平周館  
 電話六二四